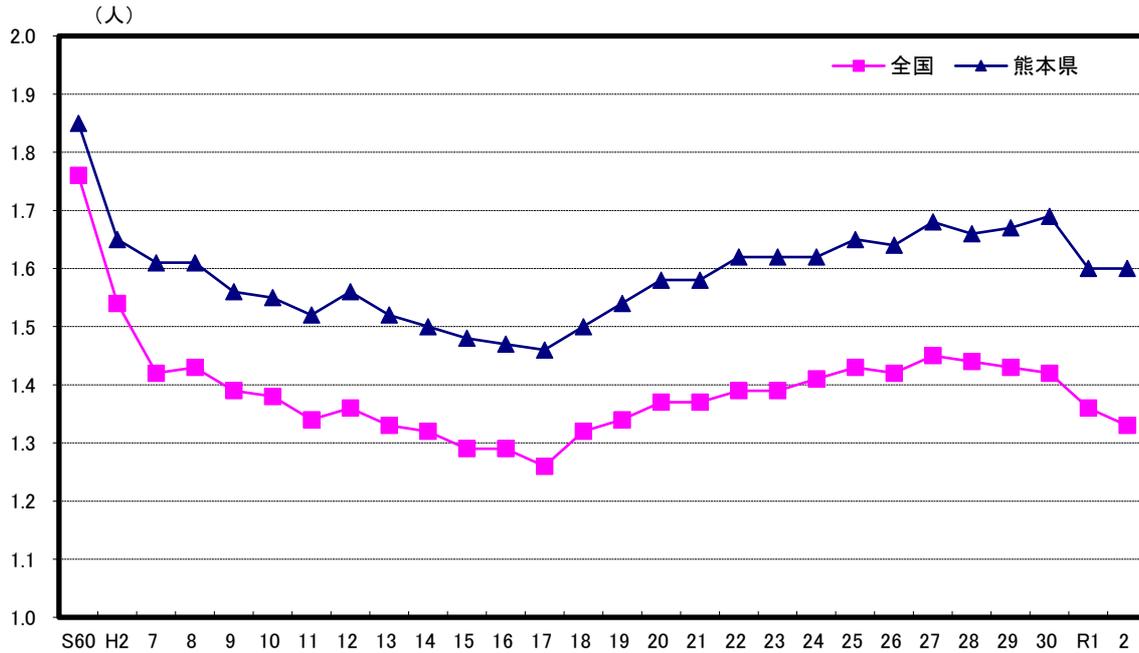


合計特殊出生率の推移



解 説

【概要】

令和2年の県内出生数は13,011人で、前年より294人の減少となった。出生率の推移をみると、平成17年に8.5%まで減少した後、平成20年に9.1%まで増加したが、平成21年以降、再び減少傾向となり、令和2年は過去最低の7.6%となった。

また、合計特殊出生率は、昭和60年の1.85人から、平成17年には1.46人まで減少したが、平成18年から増加傾向に転じたものの、令和元年、2年と2年連続で1.60人と急減し全国8位であった。

○出生数

1月から12月までの1年間に届け出のあった出生数。全国計には外国での出生数を含むため、都道府県計と全国計は一致しない。

○出生率

人口千人当たりの出生数。

○千分率 (‰ : パーミル)

全体の合計を1,000とし、その1,000分の1を単位として表す比率。

○合計特殊出生率

その年次の15歳～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数に相当する。

○死産数

妊娠満12週以後の死児の出産をいい、死児とは出産後において心臓搏動、随意筋の運動及び呼吸のいずれも認められないものをいう。

○死産率

死産数÷出産数×1,000

資料 出 所	調 査 期 日	調査周期
「人口動態調査」 厚生労働省	令和2年	毎年